



文 化

木下 三郎の遺孀は、... 自作自演が必須。クララ... 江崎昌子。確かな技術に... 裏打ちされた音楽性ゆえ... かに演奏は、作曲家の性... 別にごだわる愚を戒め... (2011年、オク... タウィア・レコード)

上げた技術を生かし、10年前から昆虫などを題材にした工芸品を作っている。ゲンゴロウやゲンゴムシなど作品は30種類以上、1000個あまりにおよぶ。精緻さには自信があるから、あらゆる角度から眺めてほしい。

だ。水差しなどの課題を制限時間内に作り、精度と美観を競う。0.1mmのズレでも減点される厳しさだ。昔から没頭するたちで、何事も徹底しないと気が済まない。大会前の半年間、1日も休まず深夜まで練習した。努力が実り、翌2006年、2度目の出場で優勝を手にした。伝統的な建築板金技術は奥が深く、職人芸といっている。ところが、ここ数年で汎用品に押されて需要は落ち込み、廃れつつある。優勝後、多

力が実り、翌2006年、2度目の出場で優勝を手にした。伝統的な建築板金技術は奥が深く、職人芸といっている。ところが、ここ数年で汎用品に押されて需要は落ち込み、廃れつつある。優勝後、多

カマキリのそりあがったお尻。屋根の一字ぶきの技術を応用し、蛇腹状に銅板を折って曲げた。カプトムシの胴体の丸みは、先端が樹脂の打ち出し棒に銅板を載せ、丁寧に叩いていく。表面をなめらかにするために裏から叩くのがミソだ。

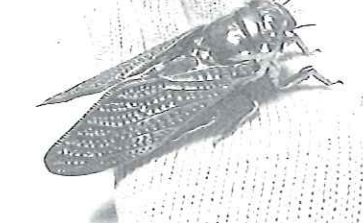
板金の虫魂打ち込む

◇セミ、カマキリ、サソリ... 伝統技法で1000超す作品◇

谷口 宜伸

仕事を終え家に帰り、妻の手料理を食べて、ひとつ風呂浴びる。息つく間もなく和室に向かい、ドカッとあぐらをかく。さあ、昨日の続きだ。

トン、トン...。細い棒に厚さ0.2mmの銅板を載せ、金づちで慎重に叩く。思い通りの曲面になるまで数時間根を詰める。写真のセミは、こうやって叩いたり曲げたりした30個ほどのパーツを組み合わせて仕上げた。建築板金工として磨き



厚さ0.2mmの銅板で制作した

くの人に技術のすごさを知ってもらう方法はないかと考え始めた。「お兄ちゃん、ひとつどっ」。ちよここの頃、家族で出かけた山口県の鍾乳洞で、露天商に声をかけられた。細長い葉っぱをササッと編んでいる。これだ！とひらめ

らめっこしながら構造をつかみ、チョウやカマキリの展開図をおこした。加工には板金技術の粋が詰まっている。例えば



の5体のうち2体。最高の技術を見せるのが目的だから、精度や美しさは一切、妥協しない。本物のように関節が動く自在置物にも取り組んだ。東京の遊園地、としまえんの昆虫館で館長に「サソリを作りたい」と相談すると、「サンプルがあるよ」と2体、標本を分けてくれた。生きて

サソリもその場で手に載せ、じっくり観察した。動かすには強度が必要だから、0.8mmの銅板を使う。いつもより分厚いぶん難しく、完成には丸1年かかった。

飛べ、100年後まで10年前は「昆虫なんか作ってどうするの？」とずいぶん冷やかされたが、地元の広島県から表彰されたり、講演依頼を受けたりするようになる。と、反応も変わった。展覧会では子供から主婦、昆虫マニアの方まで、熱心に見て、触って、驚いてくれる。とくに人気なのがムカデの自在置物で、首に巻きつけて写真

抄遊

リーターのめた日程を愛するのは大... 一言の重みに... 救われ、感謝... する。201... 通常だ。しかし太田国交... 5年をまたぐ... 相は一言、「大丈夫なん... だな」。「大丈夫です」... との答えに「わかった」... と強く応じていた... だ。この一言で道は開... れ、国交省幹部の... 信頼と応援でその... 道を進めることが... できた。

重み

陽 道を進めることが... できた。